

令和5年度 府中市立新町小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名練習・言葉集めなど、興味をもって取り組む児童が多いが、助詞・拗音・促音などを正しく表記することについては、個人差がある。 文章の内容を正しく理解できていない。 話したり書いたりするときに、どう表現したらよいか分からない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で書く機会を増やし、助詞や拗音・促音・長音を正しく書けるように継続的に指導する。 音読の宿題を毎日出し、読むことに親しませ、読み取る力を高める。 板書やICT機器を活用して表現をするときの観点やモデルを提示し、視覚的に分かりやすくする。 	B	A
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数と量の関係の理解が不十分な児童がいる。 問題文から必要な情報を読み解き、立式をすることが難しい児童がいる。 既習の考え方をを用いて、別の問題に取り組むことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックや図などの具体物を用いて、数と量の関係を結び付ける。 問題を読む際、意味を確認し、見通しを付けてから問題に取り組むようにする。 学習したことを画用紙などに書いて残し、児童が確認できるようにする。 	B	A
生活	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な体験や活動を通して、気付いたことを広げられない。 自然と関わったり、季節を感じたりする経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付きを言葉や文字で表現する振り返りの時間を設定する。また互いに伝え合う場を工夫し気付きを深められるようにする。 虫や植物などの自然に関わることにより、季節による自然の変化や不思議さに気付き、自分の生活を楽しくしようとする意欲を高めるようにする。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 拍を感じ取って体を動かしたり、手拍子をしたりすることができない児童がいる。 幼稚園や保育園などで合奏などをした児童と音楽活動をしたことがない児童の技能の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動として、音楽に合わせて体を動かしたり、手拍子をしたりして拍の流れを感じることをできるようにする。 教師やできる児童のまねをさせ、楽しみながら一緒に音楽活動ができるよう教材選定や授業展開を工夫する。 	B	A
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> はさみやのり、筆などの用具を自分の思い通りに使えない児童がいる。 児童それぞれが「こうしたい」という自分の作りたいイメージをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の適切な使い方を何度も復習し、定着させる。 具体的な作品例を複数示すとともに、材料や画材と親しむ時間を十分確保し、表現のきっかけをつくる。 	B	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 用具を用いた動きがぎこちない。 動きの工夫について考えたことを相手に伝えるように伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具を操作する動きのポイントを学習カードを用いて視覚化、確認できるようにする。 同じ動きにも様々な用具を用意し、児童が自分に合った用具を選択できるようにする。 全体で工夫について共有する場を設け、他の児童の言葉をつなぎながら、分かりやすい言葉を身に付けていく。 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立新町小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きが苦手な児童がいる。 自分の思いや考えを文章として表現が苦手な児童がいる。 文章をまとまりとして音読することや、物語の内容を正しく理解することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きを習得させるため、週3回の小テストを実施し、学期末の漢字テストで正答率85%以上を目指す。 ノートやワークシートを効果的に用い、添削を通して、順序立てた書き方を指導する。 毎日音読の宿題を出し、文章に慣れさせることを基本とし、作者の伝えたいこと、大事な言葉を整理してポイントをおさえた、分かりやすい授業を展開する。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 繰り下がりのある引き算や、長さの計算など、思考を伴う問題を苦手とする児童が多い。 九九の暗唱をすばやく正確に答えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日のドリル学習や、習熟タイムを使って、基礎基本の定着を図る。習熟度別に、難易度が選べる問題を用意し、思考力を鍛える。 九九のそれぞれの段の合格カードを作成し、学年末までに全員が暗唱できるように何度も繰り返し指導する。 	B	A
生活	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通して、何に気付き、今後の自分の生活にどう取り入れていくのか表現することが苦手である。 主体的に工夫して行動したり、興味関心のあることを増やしたりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動体験をもとに、自分自身の気付きや、考えを文章や絵で表現できるよう、見本を提示して考えさせる。 身近な社会との関わりや自然について、興味関心がもてるよう、ものの見方の視点を増やす。 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱や体でリズムを表現する活動を恥ずかしがらずに楽しんで行うことが苦手である。 曲調を感じながら音楽を聴いたり、自信をもって演奏したりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書とは別に、児童の好きな歌も歌集からリクエストをとり、自由に歌う楽しさを味わわせる。 簡単なリズム打ちや、鍵盤ハーモニカでの演奏を90%の児童ができるよう、児童同士の教え合いを通して、楽しく学習させる。 	B	A
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表したいイメージに合わせて、色や形を選び、楽しく表すことが苦手な児童がいる。 自分や友達の作品に興味をもって、楽しく鑑賞することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表したいイメージをもてるように、参考例を充実させ、制作時は児童の多様な表現を積極的に賞賛することで自分の表現への自信を付けさせる。 鑑賞の機会を題材ごとに設け、見ることに親しませるとともに、具体的な見る視点を与え、鑑賞を楽しむ姿勢を身に付けさせる。 	B	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 鉄棒、うんていなどの固定遊具では、体を支える力、握る力が弱く、バランスをとれない児童がいる。 ボールを使った運動や縄跳び遊びなど、児童によって個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達との教え合い、コツの伝授、頑張りカードなどで、励まし合いながら「できるようになりたい」という意欲を高めていく。 指導計画の見直し、改良を常に行い、指導のポイントを明確にし、練習時間をきちんと取った上で、取り組ませる。上達が視覚的に分かるカードを取り入れ、できたことへの喜びを味わわせる。 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立新町小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章に表したり、伝えたりすることを苦手としている。 既習の漢字や言葉を日常で使えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の書き方・話し方のモデルを提示し参考にできるようにする。考えを交流する活動では、よい表現の仕方を認め合い、活用できるようにさせる。 小テストなどで復習を行う。また文章を書く際には、既習の漢字や言葉を掲示したり調べさせたりして書かせる。 	C	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> かけ算（九九）の習熟度合いの個人差が大きい。 計算の過程を書く問題や答えに、単位をつけられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容や概念の理解場面において、九九シートを活用し、九九の計算ミスによる場面把握ミスを減らす。 問題と図と式を関連させながら、登場する数字がどのような意味をもつ数字なのか、考えさせる。 	C	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題を科学的に解決する学習方法や考え方を習得させる必要がある。 問題に気付いたり、問題について自分の考えを交流したりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を基に考察し、結論を導き出すなどの問題解決の活動を充実させる。 比較しながら差異点や共通点に気付かせ、それを基に考えを交流し、自分の考えや実験の結果をノートに記録させる。 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図や資料を読み取り、自分の考えをもつことが難しい。 学習したことが実際の生活の中でどのように活用され、役に立っているのか、また自分の生活とどのように関連しているのか結びつけるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や表やグラフなどの様々な資料の見方、読み取り方を繰り返し確認し、読み取ったことを交流しながら自分の考えをノートに記録させる。 授業の振り返りでは、学習したことが自分の生活とどのように関わっているのか考えさせ、意見の交流を充実させる。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 個人の技能差が大きくなる時期であり、人前で声を出したりリコーダーを吹いたりすることにとまどいをもつ児童もいる。 苦手意識をもつ児童の中には、歌う意欲が低下する児童も出てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の興味関心を引くよう ICT 機器も使いながら教材展開を工夫する。 常時活動として、愛唱歌を歌ったり、リズム遊びをしたりして音楽に進んで取り組む雰囲気をつくる。 クラスルームにリコーダーの動画を掲載し、児童がタブレットで見て練習できるようにする。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の「こうしたい」に合った表現を工夫することが難しい児童がいる。 自分の作品に自信をもって、楽しくお互いの作品を見合うことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の「こうしたい」という思いを引き出す声掛けや参考例を工夫し、それぞれの思いに合った個人指導を充実させる。 お互いの作品や活動を見合う機会を題材内で何度も設定し、見ることに親しませる。 	B	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストにおいて20mシャトルランでは個人差がある。 勝敗の結果などにこだわる児童が多い。公平な態度を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動量を確保するような授業展開を設定する。 自分たちでルールを工夫したり、チームで協力したりする活動を増やして、仲間とかかわる力を身に付けさせる。 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立新町小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもって、書き表すことはできるが、人に伝えることが難しい。 文章を読み取る力が不十分な児童が多いため、テストなどで設問に正しく答えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループの交流、全体交流といった自分の考えを発言する場を意図的に複数回設定することで、友達の影響を受けて自らの考えを広げたり、深めたりといった学び合いが活発にできるようにする。 自分の考えを記述する場を設け、文章を書くことに慣れさせる。 	C	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 筆算の手順が定着していない児童がいる。 定義や分かったことを活用して、答えを導き出すことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順をキーワード化し、繰り返し提示し、指導する。 すでに分かっていることとそこから分かることを言語化し（「逆に」「つまり」など）、問題演習時に活用する。 	C	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習の基本的な流れに沿って、授業を展開するが、考察・まとめをすることが難しい。 生活体験が少ない部分が多く、児童同士で共有できることが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「課題把握→自分の予想→確かめるための実験・観察→結果→考察・まとめ」を行い、児童に学び方を身に付けさせる。 科学的な思考力の育成を目指し、問題に対する自分の予想と実験の結果を比べて考え、考察をノートに書かせる。 	B	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料から気付いたことや分かったことを端的にまとめることが難しい。 学習当初は、好奇心が高いが、既習事項を生かしたり関連付けたりしていくことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真、表、グラフ、地図等の様々な資料を活用し、児童の気付きをもとに比較・分類することで社会的事象の見方・考え方を広げることができるようにする。 授業内で既習事項を繰り返し確認するとともに、授業のまとめとして振り返りを行い、新たな気付きや既習事項の結び付きを重視する。 	C	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 児童の感性がさらに発達し、好みが分かれてくる時期であり、演奏を聴いてそのよさを理解できるようになってくるが、音楽の語彙力が乏しく他人に音楽のよさを伝えられない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞と技能の指導を関連させ、自分の言葉で音楽のよさを説明できるように教材選定を工夫する。 様々な楽器に触れて演奏することで、感性を育て、他の楽器を聴きながら簡単な合奏ができるように取り組む。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現に自信をもって取り組み、最後まで集中を続けさせることが苦手である。 鑑賞を親しむ姿勢が身に付いていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に合わせ、内容を精選するとともに、ショートステップで取り組むことで自分の表現に自信がもてるようにする。 作品だけでなく、身近な事象等を見る機会を設け、児童が楽しんで鑑賞できるよう工夫する。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> めあてをもって学習に取り組むが、めあてを達成するためにどのように練習すればよいかを判断するのが難しい。 動きのコツを上手く伝え合うことが難しいため、よい伝え方を示したり伝え合いやすい場を用意したりすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 場や用具などの工夫を図り、児童が個のめあてに応じて主体的に練習方法を選択したり工夫したりすることができるようにする。 学習カードを活用し、運動のポイントなどを分かりやすく提示する。 主運動の前に素早い動きを高める運動を取り入れ、運動能力の向上を目指す。 	C	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立新町小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 意見や考えを書いたり話したりすることが難しい児童が多い。 友達の意見を受けて話をつなげたり、自分の考えを深めたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめる時間を十分確保するとともに、筋道立てた書き方・話し方のモデルを提示し参考にできるようにする。 対話的協働的な学習場面を多く設定し、話し合う経験を増やすことでスキルを高める。 	B	A
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数と数の関係を言語化したり、式に表したりすることが難しい児童がいる。 計算のきまりを活用して、式を変形することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図や表を活用して、どのような関係になっているか、確認していく。 式の変形前と変形後を比較して、明示しながら、活用するべき場面において繰り返し指導する。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題に対して、予想したことをもとに観察・実験方法を考えることが難しい児童が多い。 観察・実験によって得られた結果から、まとめや考察する力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を解決するために必要な視点を示し、児童が解決までの筋道を構想できるようにする。 まとめ、考察では、児童同士の交流場面を設定することで、多様な考えから信頼性・妥当性を吟味できるようにする。 	B	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> 様々な資料から適切な情報を読み取り、まとめる能力に個人差が見られる。 考えや選択、判断したことを相手に説明することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の視点を絞り、提示された資料から問題解決に必要な資料を選択し、スクラップシートを作成するなどして資料を分析できるようにする。 相手に伝えるためのモデルを示し、小グループでの体験を重ねていく。 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 合唱や合奏など、他人と合わせることに喜びを感じる児童が増えてくるが、客観的に演奏を聴いて自分の出す音を調整したり、音のバランスなどを考えたりして演奏できる児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 和音などの音の重なりを学習して、音楽を聴いての気づきを増やし、合唱や合奏など自分たちの演奏に生かせるよう指導する。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 制作や鑑賞活動の中で、自分の考えを表現することが苦手な児童もいる。 材料や用具を自分の思いに合わせて使う技能の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作活動の際も伝え合う活動の時間を設け、感じたことを言葉にすることに親しませる。 材料や用具の効果的な活用方法を重点的に指導するとともに、工程に合わせた場を設定し、それぞれの段階に合わせてスムーズに制作を行えるようにする。 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活への興味・関心が薄い児童が多い。 裁縫に関して、「並縫い、玉止め、玉結び」など基本的な技能習得に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験をもとに自己の生活を振り返る活動を取り入れることで、家庭生活への興味・関心を高める。 基礎的な技能を身に付けられるよう、個別指導を行うとともに、動画を活用して視覚的に分かりやすい指導を展開する。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの、敏捷性、持久力、筋持久力の値が低い。 運動における自己の課題を見付け、解決に向けて相互に観察したり、振り返りをしたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動や主運動の前に敏捷性などを高める運動を多く取り入れる。 学習カードを用いて、めあてを明確にし、振り返りを通して次時のめあてを決定し、課題解決を図る。 	B	A
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 日本語以外の言語を話すことに不安や羞恥心を感じ、積極的に発表する児童が少ない。 学習した挨拶や自己紹介などの簡単な外国語をやり取りすることに慣れていない。 ローマ字ではなく、英語の表記を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語の文字を認識し繰り返し読み方を発音し自信をもたせることで、発音に対する不安の解消を図る。 伝えたい内容を整理し、教科書や辞典を活用しながら必要とする表現を選択し相手に伝える指導を行う。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていない
で、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立新町小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 読解力に個人差があり、文章を読み取ったり要旨をまとめたりすることが苦手な児童がいる。 自分の意見や考えを、書いたり発表したりするための表現力が十分でない傾向がある。 漢字や言葉の力が定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードを見つけたり、要旨を表にまとめたりする活動を通して、読解力を高める。 朝の会や話し合い活動など、自分の意見や考えを表現する場を多く設定する。 ドリルや小テストを活用することで、漢字や言葉の力を高め、語彙力を増やす。 	B	A
算数	<ul style="list-style-type: none"> 問題文から必要な情報を読み解き、立式をすることが難しい児童がいる。 分数の計算時に、通分・約分の操作に困難を感じる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 数直線、4マス関係表、面積図、ことばの式など立式をするための数字の関係の整理方法を活用する。 途中式を書き、通分・約分などの数字の操作を明確にする。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然に親しむこと、理科の見方・考え方を働かせること、見通しをもって観察・実験をすることが十分できていない児童がいる。 自然の事物・現象についての問題を科学的に解決することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物や自然現象を例にとり、からだの構造やはたらきを顕微鏡や薬品を適切に使って観察させる。 児童が自分で考え、自分で調べることができる時間を取る。 	B	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> 年表や写真、想像図などの資料を読み取る力に個人差がある。 さまざまな歴史的事象からどのようなことがわかるのかを考察することが苦手な児童が多い。 基礎的な用語等の知識がなく、調べ学習をしても理解に結び付けることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料集や動画、インターネットなど、様々な資料から情報を引き出す経験をさせる。 事象からわかることをクラスやグループで話し合う機会を設定し、思考力を高める。 調べ学習をする際には机間巡視や個別指導を行い、基礎的な知識を身に付けさせる。 	B	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 演奏技能も向上し、合唱や合奏など曲の難易度も高くなるが、思いや意図をもって主体的に演奏することには慣れていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の楽しさを味わいながら、自分たちの思いや意図をどう演奏に生かしていくかを考え、演奏に生かせるようにする。ICT 機器なども活用し様々な演奏を鑑賞したり、自分たちの演奏を録音したりするなどしてよりよい表現をできるように指導する。 	B	A
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いに合わせて材料や用具を適切に選び、使うことに慣れていない児童が多い。 自分の表現を粘り強く追及することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の活用方法を適宜指導するとともに、児童が自分で選択して作る機会や時間を多く確保する。 活動中も鑑賞の機会を設け、友達の考えや表現を自己の表現に生かせるようにし、より表現を深められるよう個別指導を充実させる。 	B	A
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活への関心が低い児童がいる 手縫いやミシンかけ等の基礎的な技術の習得に関しては個人差が大きい。 調理に関する知識や技能に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活について興味を持たせ、学習したことを普段の生活に生かせる課題を設定する。 基礎的な技術を身に付けられるよう、家庭科室内の掲示物の工夫を行い、専科と担任が連携しながら、必要に応じて個別指導を行う。 	B	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストでは、握力、持久力、走力、ジャンプ力の平均ポイントが全国と比較すると下回る。 得意な運動には取り組むが、苦手な運動には取り組もうとしない児童が目立つ。日常生活に必要な基礎的な運動能力が身につけていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の課題を踏まえ、「器械運動」「陸上運動」「ボール運動」の授業において、課題となる力を鍛える練習を取り入れ、向上を図る。 児童が楽しみながら運動できるようにする。ペアやグループでミニゲームをしながら段階的に課題解決をさせる。個別の課題について、自分のペースで能力向上に取り組める場と時間を設ける。 	B	A
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 日本語以外の言語を話すことに不安や羞恥心を感じ、積極的に発表する児童が少ない。 自分の考えや気持ちを簡単な表現を用いて相手に伝える活動を苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループなどの小集団での学習を行い、リアクションを踏まえながら互いの発音や表現を認め合う時間を設ける。 モデルを示し、基本的なフレーズを自分の気持ちと合わせながら表現する活動を取り入れる。 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。